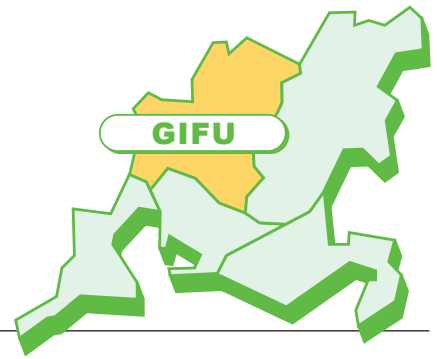


# 中部 だより

中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。



## “山国育ちのとらふぐ” ～地域エネルギーを利用した地域創生～

### 1. 岐阜県の6次産業化支援の取り組み

地域創生の掛け声の下、全国で地域資源を活用した6次産業※創出が期待されている中、岐阜県では、6次産業化サポートセンターを設置し、プランナーとよばれる専門家による6次産業化に取り組むうえでの課題解決等の支援を行っている。また、6次産業化商品のテストマーケティングや情報発信拠点として、アンテナショップを名古屋市に設置し、消費者ニーズの把握や販路開拓の場としている。



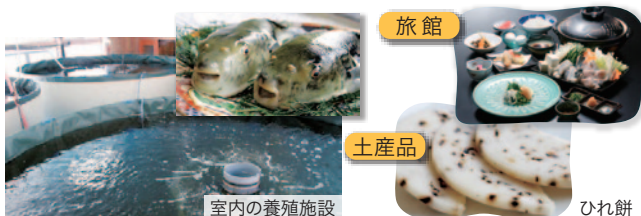
産地では、地域の農林水産物の他、地域外の農林水産物を取り入れ、新たな特産物を生産・加工するケースもある。全国有数の温泉地である飛騨地方では、豊富な地下水・温泉を利用したユニークな6次産業化の取り組みが進んでいる。

※6次産業：農林水産業者が生産(1次)、加工(2次)、販売(3次)まで一体的に取り組んだり、2次、3次業者と連携して新商品やサービスを生み出したこと

### 2. 飛騨地方のとらふぐ養殖

#### (1) 海のとらふぐを山間地域で養殖

ミネラル豊富な地下水に恵まれる飛騨市では、地元の家釣り愛好家等が2005年頃からフグ養殖を始め、2009年に安定供給システムを確立した。独自の技術で養殖期間の短縮やストレス軽減を図り、高品質・通年出荷を実現し飛騨市を代表するグルメとなりつつある。また、地元商工会と連携し独自メニューや土産品の開発を行い、「飛騨とらふぐ」のブランド化や観光活性化を図っている。



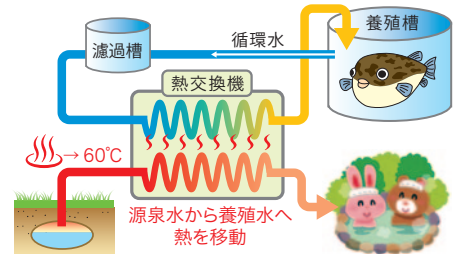
#### (2) 温泉熱を利用した養殖

飛騨市で確立したフグ養殖は、市外にも展開している。高山市奥飛騨温泉郷では、約60度の源泉を熱交換により水温維持に利用し、下呂市金山町では、泉質の合う温泉水を地下水と混合し、水温維持とミネラル摂取に利用している。温室や水槽など施設利用型の農水産物生産では温度管理コストの抑制が課題となるが、両地域では、地元で生まれ



れる天然の熱を有効利用し養殖を進めている。

#### 温泉熱利用のイメージ(奥飛騨温泉郷)



岐阜県内では、他にも温泉熱を利用した熱帯産

果実の栽培やスッポン等の養殖に加え、間伐材をボイラー燃料とした木材乾燥やキノコ栽培、雪室の冷気を利用した稲苗の生育や日本酒の貯蔵・熟成等の地域熱エネルギーの活用例がある。

### 3. 地域産業の発掘に向けて

岐阜県内では、エネルギー創出と山林の維持を目的に地域の間伐材を利用したバイオマス発電を行い、その際発生する熱を農産物生産や温浴施設へ供給することで、エネルギー利用の高効率化と地域の産業創出の両立を図る取り組みがある。山間部以外でも、工場等様々な場所で発生する未利用の熱資源を見つめ直し、地域に新たな産業を産み出すヒントとして注目していきたい。

(岐阜担当 小島 琢也)

取材協力・写真提供：  
(株)飛騨海洋科学研究所、(株)ひらゆの森、岐阜県、飛騨市